

グラフと絵で見る食料・農業

—統計ダイジェスト—

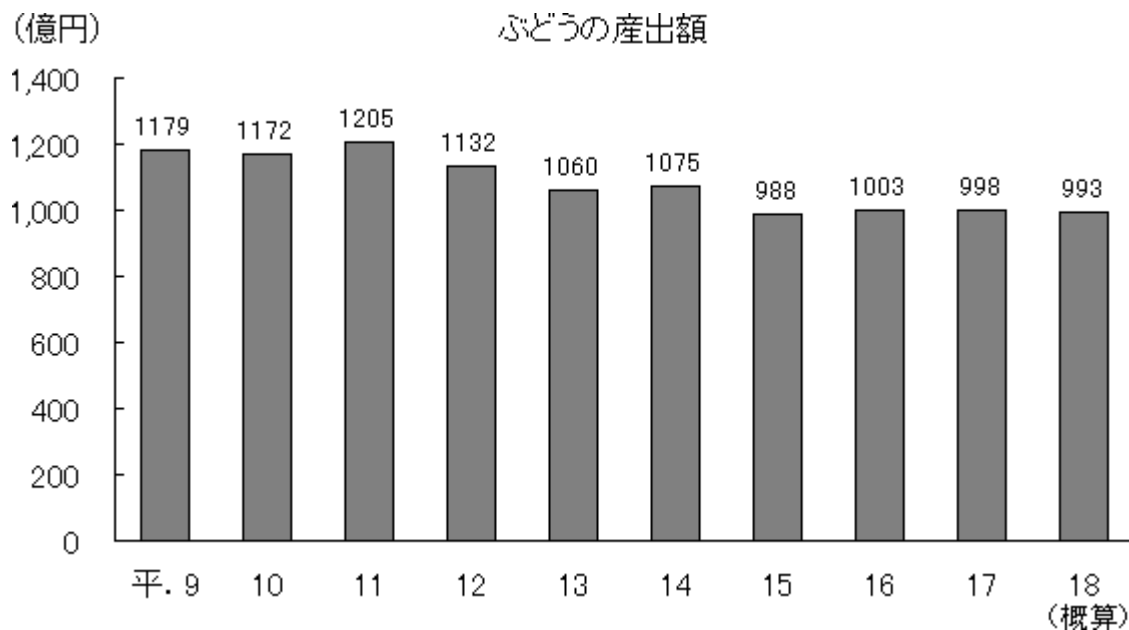
統計部

[トップページへ](#)

4 ぶ とう

- (1) [産出額](#)
- (2) [栽培実農家数](#)
- (3) [結果樹面積・収穫量の動向](#)
- (4) [卸売価格の動向](#)
- (5) [ぶどうの貿易量](#)

(1) 産出額

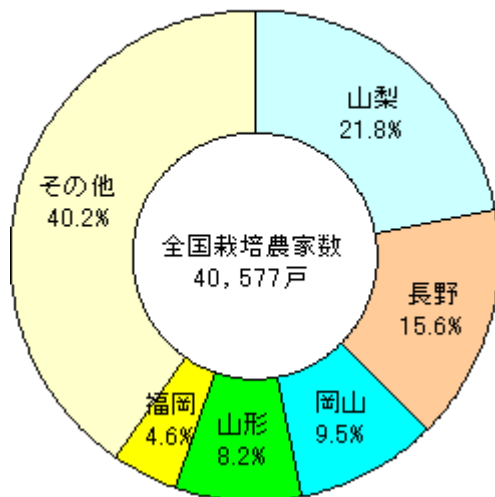


資料：農林水産省「平成18年農業産出額（都道府県、市町村別）」

平成18年のぶどうの産出額（概算）は993億円で、前年に比べて5億円（0.5%）減少しています。

(2) 栽培実農家数

ぶどうの栽培農家数



平成17年のぶどうの栽培実農家数は、4万1千戸で、山梨県がもっとも多く全国の約2割を占めており、次いで、長野県、岡山県、山形県、福岡県となっており、この上位5県で約6割を占めています。

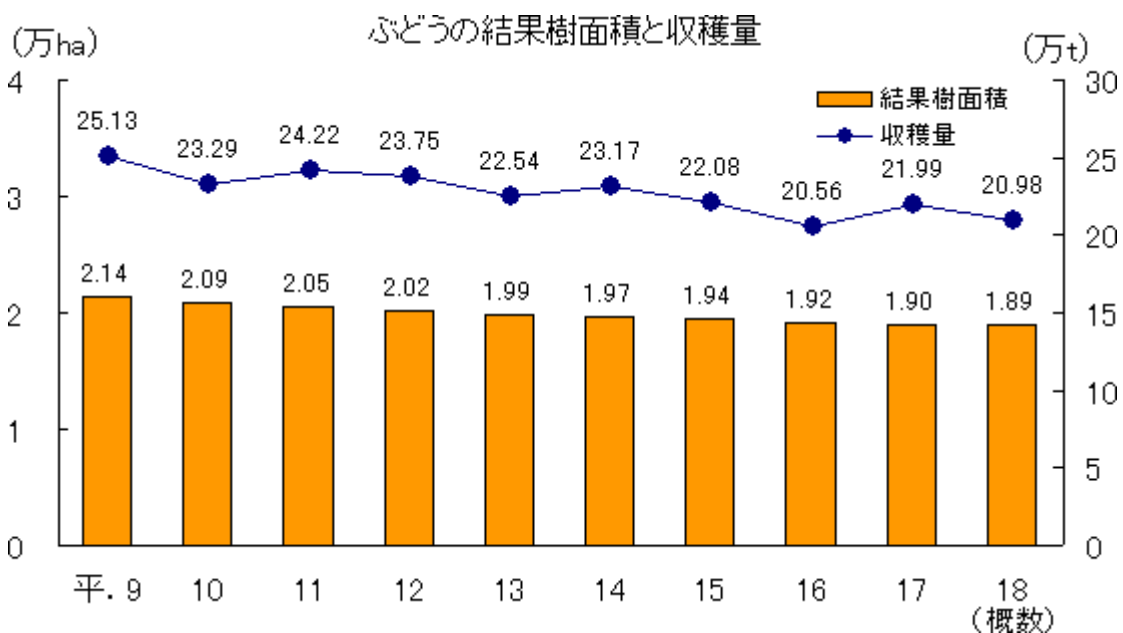
資料：農林水産省「2005年農林業センサス」

注1：農家数とは、販売目的で果実を栽培した農家数をいう。

2：露地栽培または施設栽培によりぶどうを栽培した農家数である。

[トップへ](#)

(3) 結果樹面積・収穫量の動向



資料：農林水産省「平成18年産日本なし、ぶどうの収穫量及び出荷量」

ぶどう収穫量上位5県（平成18年産）

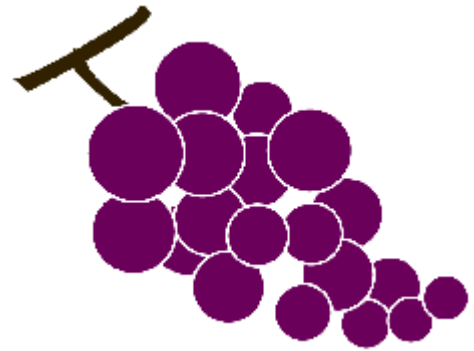
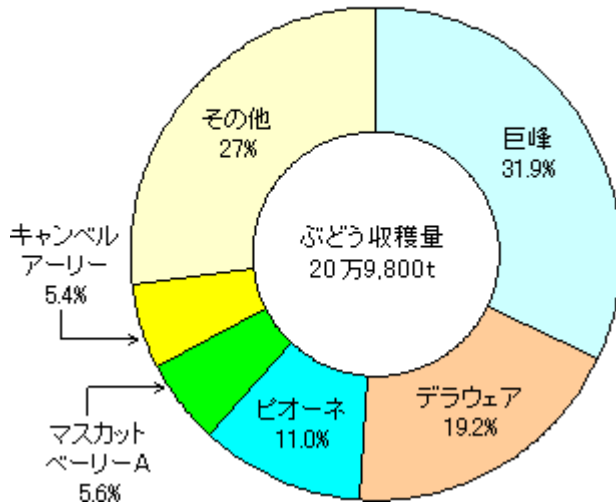
順位	都道府県	収穫量(t)
1	山梨	53 500
2	長野	30 300
3	山形	21 200

平成18年産ぶどうの結果樹面積は1万8,900ha、収穫量は20万9,800トンとなっています。上位5県で収穫量の約6割を占めています。

4	岡山	15 100
5	福岡	9 630

資料：農林水産省「平成18年産日本なし、ぶどうの収穫量及び出荷量」

ぶどうの品種別収穫量割合

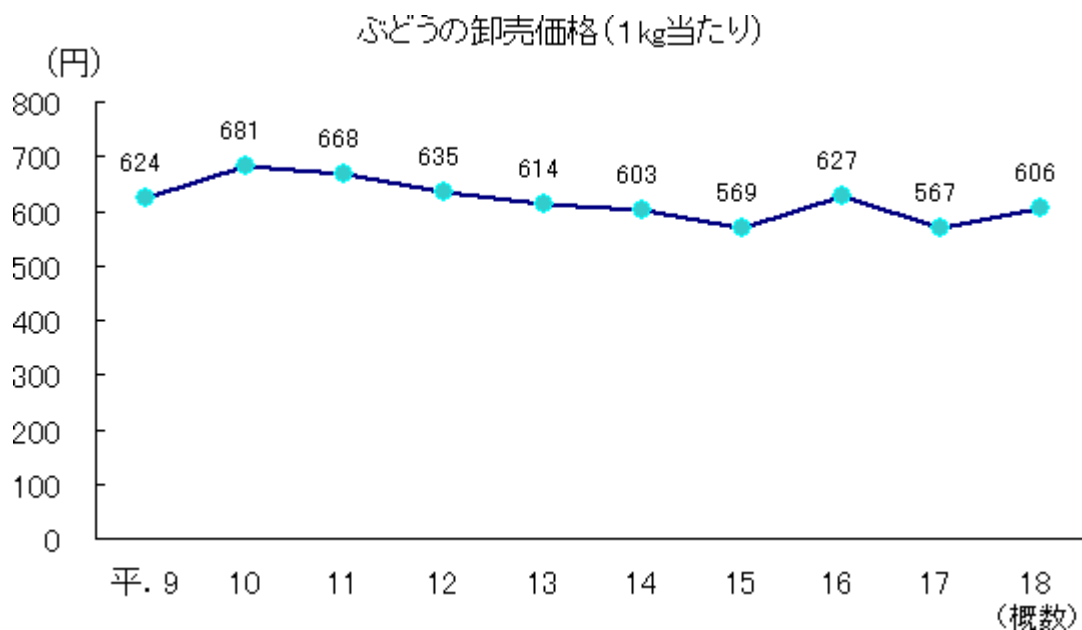


資料：農林水産省「平成18年産日本なし、ぶどうの収穫量及び出荷量」

また、収穫量を品種別にみると、巨峰が6万6,900トンで全体の32%を占めており、次いで、デラウェアが4万300トン、ピオーネが2万3,000トンで、それぞれ19%、11%を占めています。

[トップへ](#)

(4) 卸売価格の動向



資料：農林水産省「平成18年青果物卸売市場調査結果の概要」

平成18年のぶどうの卸売価格（概数）は1kg当たり606円で、前年に比べて39円（6.9%）上昇しています。

[トップへ](#)



一口メモ…ぶどうの由来

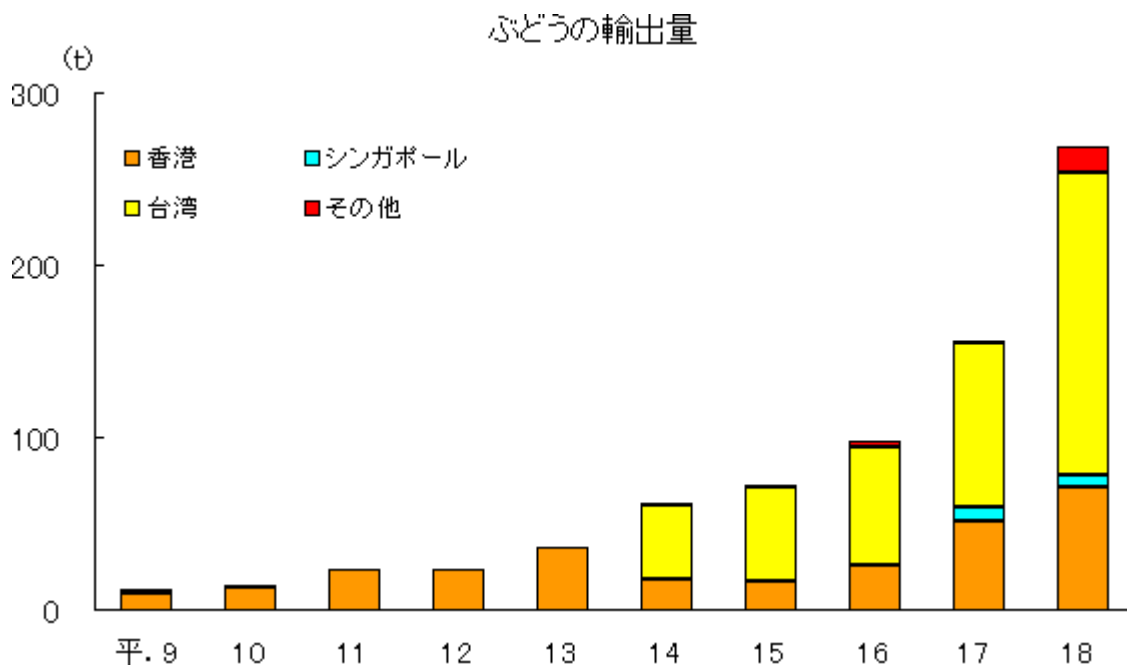
ぶどう栽培の歴史は古く、紀元前から広く栽培されていたといわれています。

我が国におけるぶどうの栽培の歴史は、鎌倉時代の初期に甲斐の国（今の山梨県）で甲州種が発見されて栽培が始まったといわれています。

明治に入ってからアメリカやヨーロッパからいろいろな品種が導入され、今では北海道から九州・沖縄まで日本の各地でさまざまな品種が栽培されています。

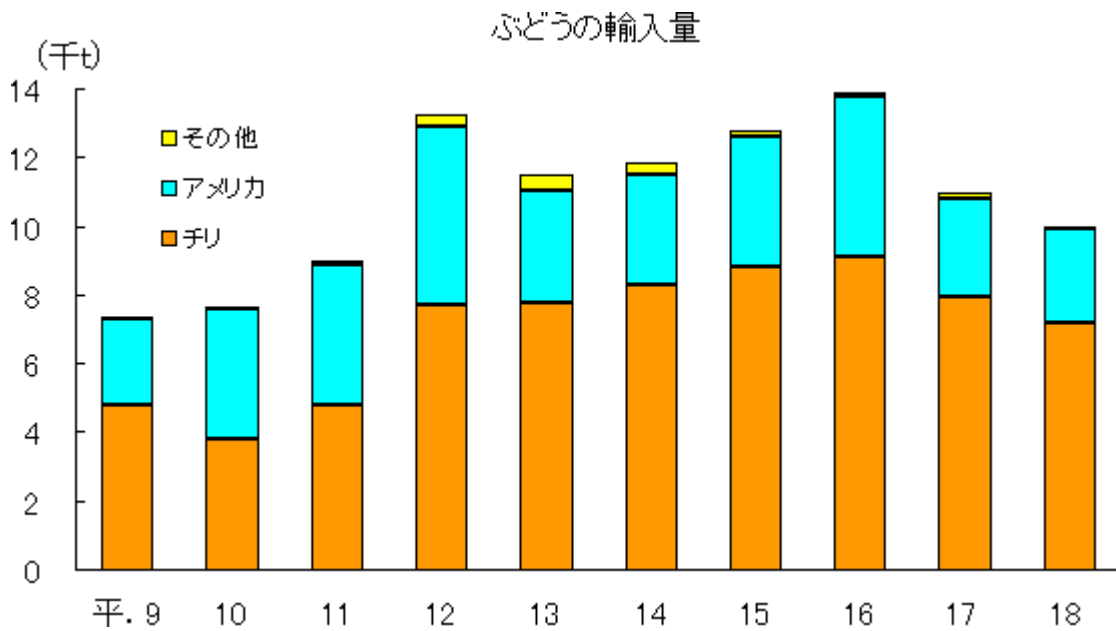
[トップへ](#)

(5) ぶどうの貿易量



資料：財務省「貿易統計」

平成18年のぶどうの輸出量は269トンとなっています。多くが台湾（66%）への輸出です。



資料：財務省「貿易統計」

平成18年のぶどうの輸入量は9,949トンとなっています。
チリ（72%）とアメリカ（27%）からの輸入がほとんどを占めています。

[トップへ](#)



一口メモ…ぶどうはワインに

ぶどうは、世界中で1番生産量が多い果物です（平成17年で6,653万t）。日本では生食することが多いですが、世界的にはワインなどの醸造用に使われることが多いようです。

[トップへ](#)